

株式会社 中野木型製作所

商品の心を型にします
木型の駆け込み寺ハート
カタチ

現場ではこだわりのものづくりが行われている



きめ細かなミーティングで工程・品質管理



社内の木型から生まれた各種の紙箱類

納期
相談
試作可
小ロット業務
内容紙器類やPOPづくり
支える木型を供給

ダンボール箱や紙器、さらには商業店舗などで使われるPOPは、大きな紙をプレスして形になる部分だけを切り抜いて作られていく。切り抜くためには精密な木型（抜き型）が必要で、同社はその有力メーカー。商品の心を型にするというコンセプトに加えて、急ぎの案件や、やっかいな案件についても断らないというポリシーで事業を展開しており、取引先からは信頼のおける駆け込み寺として評価を得ている。

強み
一品一様の対応力と
蓄積したノウハウが武器

木型とは、ベニヤ板の上にパッケージ形状に合わせて加工した鋼の刃物を埋め込んだもので、「抜き型」とも呼ばれる。「40社あれば40種類のパターンがある」と中野秀輔専務が言うように一品一様の対応力を持ち味である。また、精度の高い木型づくりにも定評がある。例えば、ダンボールの場合、抜き作業において乾燥時と湿気の違いでは微妙な紙質の変化により、抜いた後に「紙割れ」が発生し、不良品となるケースがある。そこで刃物の両側にコルクやゴムを貼って、紙割れを解消する。刃物と刃物のつなぎ目にも工夫をこらすなど長年蓄積してきた経験とノウハウを生かす。「現場に納入したものの、仕様や寸法が違っては結果的にお客様の工程を遅らせることになる」とし、納期対応も含め、顧客のニーズにきめ細かく対応している。

職人魂

がんこ社長のこだわりの
ものづくりが信用を築く

高い信頼を獲得してきた背景には、中野俊彦社長のものづくりに対する職人魂がある。それは、コストダウン要請などに対して簡単に対応できるものであっても、あえてそれをせず、顧客の立場にたつて、こだわりを持って良いものを作るという姿勢で、「家族が見ていても怖いぐらい、がんこ」と中野専務は話す。過去には取引先との間で、シビアな打ち合わせも多々あったようだが、「その結果、同業他社よりも値段が高くても木型の良さが評価されるようになり、それが会社の『信用』や『信頼』につながっている」としている。

今後の
展望ものづくりDNAを
継承

「両親から後を継がなくても良い」と常々言われていた中野専務だが、ものづくりが好きなことや木型に愛着を持っていたことから、現在は2代目として社を引継ぐ。当面の経営テーマは多能工化で、中野専務は「設計と製造の垣根を取り払って若手を育成し、全体のスキルアップにつなげたい」という。また、包装士の資格を持つお姉さんもデザイナーや異業種のメンバーと交流していることから、新しい紙の形も追求していく考え。「とにかく、これからは父のDNAを引き継いでいきたい」と決意をきっぱり。



本社

COMPANY PROFILE

株式会社中野木型製作所

大阪
25当社の
歴史

昭和48年に中野俊彦社長が創業。「良いものをつくりたい」と思いから、こだわりのモノづくりを実践してきました。そして、その思いは2代目の私と姉と工場長に引き継がれています。これまで品質や生産性を高めるために自動曲げ機やレーザー機などを導入してきました。平成15年に株式組織に変更しました。今後もお客様のために、私たちもこだわり続けたいと思います。

お客様の現場に合わせた
木型の製造を心がけています。

取締役社長 中野 俊彦さん



■主な事業内容

紙器に関する総合企画・各種木型製造など

■主な取引先（納入先）

印刷会社、段ボール・箱・自動車部品・プラスチック・金属精密試作メーカー

住 所／〒570-0032

守口市菊水通
3-11-9

T E L／06-6991-0776

F A X／06-6991-0882

創 業／昭和48年3月

設 立／昭和50年4月

資本金／1,000万円

従業員／10名

<http://www.e-nakanokigata.cc/>